

「新型コロナウイルスワクチン」のはなし

新型コロナウイルス感染症が広がり、血液疾患をお持ちの患者さん、特に治療中の患者さんは、ご心配されていることと思います。「手洗い」や「マスクの正しい着用」、「密を避ける行動」が、感染予防には特に重要です。その他の感染予防策として「ワクチン接種」があります。血液疾患をお持ちの患者さんにおける新型コロナウイルスワクチンの接種について、藤田医科大学が中心となって実施した研究結果も踏まえて、これまでに分かってきたことをご説明致します。

Q. ワクチンは接種しても良いの？

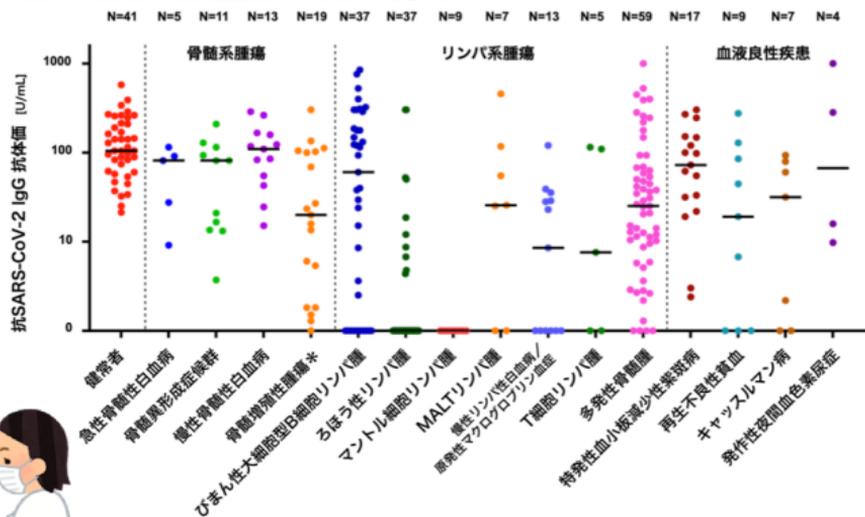
A. 一般に、血液疾患があるためにワクチンの接種ができないということはありません。しかし、一部の血小板減少症の人や凝固異常症の人などについては、接種後に普段よりも血小板減少が強くなったり、凝固異常が悪化する場合もあるため、注意が必要です。また、一部の患者さんでは、ワクチンの効果が期待できない場合もあります。接種前には、念のため主治医に接種しても良いかどうか、確認をしてください。

Q. ワクチンはどんな人でも同じように効果があるの？

A. 血液疾患があり免疫力が低下している時には、ワクチンの効果が乏しい場合があります。病気の種類や治療法、治療を終了してからどのくらい時間が経ったかにより、ワクチン接種後の反応（抗体価の上昇）の程度が異なります。下の図は、ワクチンを2回接種した後の新型コロナウイルスに対する抗体の値をグラフにしたものです。病気の種類により抗体の上昇の程度が異なります。また、同じ病気の種類でも患者さんごとに反応の仕方にばらつきがあることがわかります。「リンパ系腫瘍」の患者さんでは低い値の方が多い傾向にあります。

血液疾患患者さんにおける新型コロナウイルスワクチン接種後の抗体価

・治療中、治療後、未治療経過観察中の患者さんを含みます



*骨髄増殖性腫瘍：本態性血小板血症、真性赤血球増加症（真性多血症）、骨髄繊維症を含む



Q. 治療中や治療が終わってすぐにワクチンを打っても良いの？

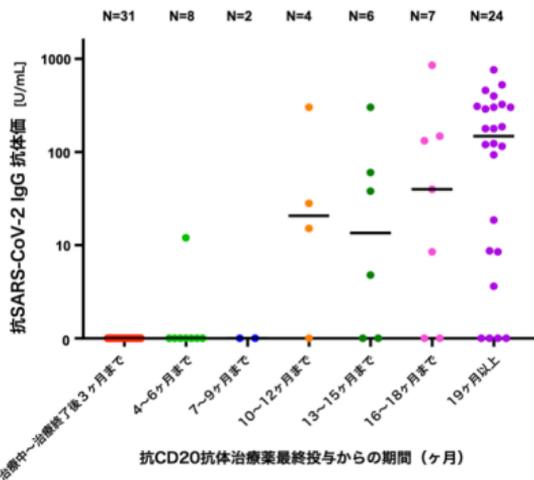
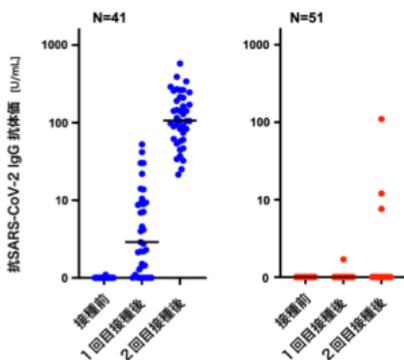
A. 「抗体」を産生するのは「リンパ球」の中の「B細胞」という細胞です。リンパ腫などのリンパ系腫瘍に対する治療を行なっている患者さんではリンパ球の数が減りやすく、抗体ができにくいと考えられます。接種をしても抗体が得られない患者さんもおられますので、接種するかどうかについては、主治医とよく相談して決めましょう。

健常者とリンパ腫治療中患者さん*における新型コロナウイルスワクチン接種後の抗体価推移の比較

リンパ腫治療中患者さん（治療後6ヶ月までを含む）におけるワクチン接種後の抗体の値を示します。これらの患者さんでは、ワクチン接種後の抗体の獲得がほとんど見られませんでした。



健常者 リンパ腫（治療中）患者さん*



* 現在化学療法を実施中の患者さん、および最終投薬日から6ヶ月が経過するまでの患者さんを含む

抗CD20抗体治療薬使用中/使用後のリンパ系腫瘍患者さんにおける、新型コロナウイルスワクチン接種後の獲得抗体価

B細胞性リンパ腫で良く使用される薬剤である「抗CD20抗体治療薬」を含む治療を行った後の患者さんにおける、ワクチン接種後の抗体価の上昇を見えています。

治療後9か月頃までは大半の患者さんで抗体の上昇がみられませんでした。10か月を過ぎてくると徐々に抗体が得られるようになってきます。そのため、治療後ある程度時間が経つまでは抗体が得られない可能性があり、注意が必要です。

Q. 気を付けることはありますか？

A. ワクチンを打った後も抗体ができにくい場合もあるため、過信をせず、感染予防対策を引き続きおこなってください。ご家族や周りの方の感染予防も大切です。ワクチンへの反応は病気の種類や治療、状況によっても違うため、主治医に確認をしてください。ワクチンの効果（感染や発症を抑える効果）については、抗体の量だけでは判断ができません。抗体が獲得された方においても、引き続き感染の予防に努めましょう。

*本資料の内容は、当院及び関連病院で実施された臨床研究の結果が元になっています。ご協力いただいた患者さん、ご家族の皆様、心より感謝申し上げます。詳しい情報は、リンク先まで。



藤田医科大学
プレスリリース



中日新聞記事



Blood Advances誌
論文